

## 情報連絡員からの報告（要旨）

### 《製造業》

#### 食料品製造業

1. <宮城県 水産練製品 >  
10月には原料が更なる値上りの予定で、食油は8月にKgあたり60円、10月にも60円値上りの予定で、人件費についても10月から3%アップ予定である。しかし、商品価格の値上げは進まない。
2. <埼玉県 漬物 >  
資材の高騰が深刻で、仕入れの経費分を販売価格に反映されず、今後の運転資金が心配である。今年のように梅雨明けが早いと、従業員の高齢化もあり作業環境の改善が必要と考えている。
3. <東京都 カレー粉 >  
原材料の価格高騰により、収益が悪化している。価格転嫁できても、売上減少につながってしまう。感染拡大で、外食需要の回復も足踏み状態となり、全く先が見通せない。
4. <三重県 醤油味噌 >  
原材料価格高騰に加え、加工用原材料の仕入先である大手食品メーカーから値上げ通知があった。期日に一斉値上げとのことだが、値上幅や時期をずらすなど段階的に行うよう交渉している。
5. <香川県 製粉製麺 >  
原料、資材の値上がりはあるが、業務用の売上は増加傾向にある。行動制限は出ていないものの感染者が大幅に増加している中で、観光、ビジネス客の減少等が心配される。
6. <沖縄県 豆腐・油揚げ >  
7月はコロナ禍の影響で工場が休む事例があった。その他でも従業員が何人か休むこともあり、売上高の減少は大きい。値上げに関してもスーパー側が難色を示している。

#### 繊維・同製品製造業

7. <群馬県 織物 >  
浴衣関連はコロナ再拡大の影響もあってか引合いがなく厳しい状況であるが、絹商品は多少活発な動きがみられる。依然、原糸価格が断続的に上昇しているが転嫁は思うように進んでいない。
8. <福井県 織物 >  
一部の自動車関連やスポーツ関連・アウトドア向けが堅調であるが、依然として前月と同じ状況が続いており、全体的にまだまだという感じでバラツキがある。
9. <滋賀県 麻織物 >  
閑散期で設備の操業度は落ちている。原料価格の高騰に引き続いてエネルギー価格も上昇しており、取引価格に転嫁するしかない状態であるが、取引先との交渉が難航している企業もある。
10. <和歌山県 繊維 >  
7月は前年同月比、売上減となった。原料や資材価格の高騰を受け、商品の販売価格も値上りし、消費者は当面の必要数量だけ購入している傾向にある。この影響が売上減少に繋がっている。
11. <山口県 外衣・シャツ >  
秋もの衣類の受注量は安定しており、生産も順調であった。原材料高騰の転嫁については消費者の理解が必要であり、現在はタイミングを計っている状況である。
12. <熊本県 ニット製品 >  
受注状況は好転しているが、一方、コロナに感染する組合員従業員及び実習生が増加し、稼働がままならない組合員が数社存在している。納期遅延等、今後の取引に影響を及ぼす懸念がある。

#### 木材・木製品製造業

13. <北海道 一般製材 >  
輸入材は入荷しているが逆に住宅着工数が減少しており、昨年までと状況が変わってきている。今後、この高い製材をどのように捌いていくかが課題となる。
14. <埼玉県 木材・木製品 >  
原木の材価の先行きは不透明である。企業によっては、昨年同月に比べ動力費が2,500千円程上昇しており、省エネの対策に苦慮している。
15. <富山県 一般製材 >  
県内新設住宅着工戸数が大幅減となり出荷が減少し、木材産業関係事業者は大変厳しい状況である。県産材の素材価格は高値で横ばいを維持してきたが、需要減に伴い値下り傾向にある。

16. <大阪府 木材加工 >  
前年同月と比べて売上高はわずかに増加しているが、消費者の客足が伸びず業界としては依然として悪化傾向である。
17. <徳島県 製材 >  
製品市場の木材の動きが悪いせいか、先月に引き続き注文は減ってきている。時期のせいもあるが原木市場への原木入荷が少なく、仕入れは依然難しい状態が続いている。
18. <宮崎県 製材(プレカット) >  
7月の加工実績は前年比91%と、引き続き状況は良くない。5、6月より受注は上向きだが、勢いに欠け、このまま秋口を迎えると思われる。

## 紙・紙加工品製造業

19. <群馬県 紙製品 >  
価格転嫁はほぼ受け入れられ、活発な動きがみられる。しかし、秋から更なる原材料の値上げが通知されていることに加え、エネルギー価格の高騰も深刻化している。
20. <東京都 紙製品 >  
紙製品業界では取引先との値上げ交渉がほぼ終了した。しかし、秋頃に原紙の再値上げがあるとの情報もあり、戦々恐々としている。文具業界は景況が悪く、量販店で売上が減少している。
21. <岐阜県 機械すき和紙 >  
紙業業界は、ウィズコロナ政策に転換し、業種による格差はあるものの売上高は回復基調に転じていると思われるが、原油価格高騰に対して販売価格の値上げが遅れ、収益状況は悪化している。
22. <京都府 紙製容器 >  
在庫数量の増加は半導体に関わる調達不足から出荷制限が続いており、各社の在庫が掃けない状態があるようだ。
23. <大阪府 古紙収集加工 >  
新聞古紙の発生は、夏枯れの影響を受け非常に悪く、業界全体としての景況は悪化している。
24. <愛媛県 紙製品 >  
製紙メーカーの第2弾の値上げも15%と発表している。まだ第1弾の15%の値上げも転嫁できていないのに、半年で第2弾の値上げは初めてである。電気料金も60~70%の値上げとなっている。

## 印刷

25. <福島県 印刷・同関連 >  
秋口から原材料の再度値上げ要請があり、各社とも販売価格への転嫁が思うように進んでいない。収益の圧迫要因の解消には至っていないのが現状である。
26. <神奈川県 製本 >  
製本会社や印刷会社の廃業・倒産が増えてきた。コロナ融資を返済猶予3年で受けていた会社の返済が始まってきており資金繰りに苦しむ会社が増えている。
27. <富山県 印刷 >  
資材の値上りにより、止むを得ず末端への値上げ交渉を行ってきたが、ようやく販売価格が上昇してきている。値上りは複数回に及び、今後も続くと思われるため、難しい要求の連続となっている。
28. <大阪府 シール >  
原油価格高騰や製造コスト上昇で価格転嫁が進まない状況が続いている。卵パック等の連パック、冷蔵・冷凍向けは堅調だが、POPラベルが減少し、取引条件・収益状況は悪化している。
29. <高知県 印刷 >  
売上、操業度共に昨対比若干アップ。県内官公需、民需はインターハイ関連、商品券等の特需もありまずまずで、県外需要もイベント等の回復もあり良い傾向である。但し、業界全体は厳しい。
30. <長崎県 印刷 >  
先月から特段の変化は見られず、厳しい状況である。適正な価格転嫁が進んでいないことがその一因であると考えられ、取引先等にも現状を理解してもらう必要があると感じる。

## 化学・ゴム

31. <茨城県 自動車部品 >  
組合員全体としては悪い状況であることに変わりはないが、事業所ごとに程度の差が激しい状況である。
32. <東京都 ゴム製品 >  
売上は前年比微増も、原油高、原料高の影響を受けて経費の上昇が続き収益を圧迫、販売価格には転嫁できていない。好調な企業が人手不足を理由に社員の引き抜きを始めている。

33. < 岐 阜 県 プラスチック >  
電子材料分野は好調であるが、半導体不足解消までに相当の時間を要するため、部品箱など生産に影響が出ている。また、感染拡大に加えウクライナ情勢もあり全く先が見通せない状況である。
34. < 大 阪 府 石鹼洗剤 >  
手洗用液体石鹼、酸素系漂白剤はコロナ特需の反動減が続いているが、合成洗剤は台所用、住宅家具用共に前年を上回り順調に推移している。業界全体としての景況は悪化している。
35. < 奈 良 県 プラスチック >  
売上高が増加に転じ、原材料・資材等の高騰に基づく販売価格への転嫁を進めている。収益状況が少しずつ改善に向かっている状況にあるが、依然先行きが不透明で厳しい状況が続いている。
36. < 島 根 県 プラスチック製品 >  
量産品受注、売上は引き続き堅調に推移している。新規引き合い、問い合わせも継続しており、新規受注も堅調である。

### 窯業・土石製品製造業

37. < 岩 手 県 砕石 >  
県内の多くの地域で価格転嫁に取り組んでおり、理解を得て成功している地域もあるが、需要自体の急激、大幅減少による過当競争のため、転嫁できずに慢性赤字に苦しんでいる地域も多い。
38. < 栃 木 県 窯業・土石製品 >  
第1四半期の出荷量（4～6月）は、昨年同期比で3.0%増加しており堅調に推移している。
39. < 新 潟 県 生コンクリート >  
令和4年7月の生コン出荷量は前年比79.6%と減少したが、4～7月までの4ヶ月累計出荷量は、前年比131.5%となっており、相対的には官民の大型物件をはじめ出荷が順調であると考えている。
40. < 三 重 県 伊賀焼 >  
コロナ感染者の増加に伴い、少しずつではあるが来客のキャンセル、減少が見られてきている。秋に向けてのイベントなど、また先の見えない状況になってきている。
41. < 徳 島 県 生コンクリート >  
7月の出荷量は昨年同月と比べて約14%増加した。あまり雨も降らず梅雨も明けたこともあり、出荷は順調だったようだ。官工事は発注物件が少ない時期で以降の発注工事に期待したい。
42. < 佐 賀 県 陶土 >  
7月の陶土共同販売高は、対前年同月比約105%、対前月比約98%で推移する見込み。6月に価格改定を実施した組合員の影響が前年同月ではややプラス、前月比ではややダウンとなった。

### 鉄鋼・金属製造業

43. < 茨 城 県 鉄鋼 >  
売上高は前年同月比1割程度増加したが、前年の実績が悪かったことが主因である。自動車関連部品を除き、建築部品や機械部品などの他の業種については、3年前の水準に戻りつつある。
44. < 埼 玉 県 鉄鋼・金属 >  
建設機械の需要は底堅く、東南アジア・オーストラリア・南米での資源開発を中心に伸長している。特に北米向け小型建機が、現地住宅開発の旺盛な引き合いとともに輸出が好調である。
45. < 富 山 県 めっき加工 >  
原油や原材料価格が急騰しているため、顧客に値上げ要請をしたところ、現時点で8割の顧客が8～10%の値上げに応じてくれた。値上げ効果で増収傾向にある。
46. < 愛 知 県 建設用金属製品 >  
鉄スクラップの取引価格が下がり続け、鋼材の流通在庫も増えつつある状況にあり、本来なら鋼材価格も下ってもおかしくないが、メーカーが依然強気なためか一向に下がる気配はない。
47. < 広 島 県 鉄鋼 >  
鋼材費及びその他輸入に依る商品（石油、石炭、天然ガス、希少金属）等の高騰が要因となり、原価が上昇している。各社共に価格への転嫁が遅れ気味である。
48. < 鹿 児 島 県 金属製品 >  
材料の高騰が止まらないため見積りも困難な状況で、材料によっては入手しづらい物もある。チェックバックの遅れが多発しており、工程にズレが生じるなどなかなかうまく進まない。

### 一般機器製造業

49. < 北 海 道 金属工作機械 >  
材料コスト、電気料金的大幅アップ、ガソリン等も値上り傾向だが、業者間の利益度外視と思われる見積り価格競争があり、価格転嫁がしにくいとする事業所がある。

50. < 栃木県 一般機械器具 >  
一時的に好況を感じたが、継続的なものではない。また、円安傾向・材料高騰・コロナは第7波になり八方塞がりな状態である。
51. < 石川県 繊維機械 >  
受注は上昇してきているが、売上はまだモノ不足が解消されておらず、予定のリードタイムに沿っての売上には至っていない。工作機械関連も、好調な需要が継続しているが同様の状況である。
52. < 長野県 一般機械器具 >  
コロナ禍の影響は相対的に小さくなったが、資材、工具、燃料等の高騰の影響は引き続き大きい。価格転嫁については理解が得られやすい環境のため、ある程度実施できている事業所が多い。
53. < 島根県 一般機械器具 >  
設備を減らしたことにより、操業度は上昇している。また、材料費の値上げ分がなかなか吸収できていない。業界としては総じて需要はある。
54. < 佐賀県 機械金属工業 >  
当団地の共同受電（19社中17社が利用）電力使用量合計の推移では、6月が97%で前年割れとなっていたが、7月は105%の増加となった。

### 電気機器製造業

55. < 山梨県 電気機械器具 >  
半導体製造関連は概ね順調に推移しているが、医療関連の動きが減速し始めたように感じている。売上は前年同月比10%程増加しているが、原材料の値上りが収益を圧迫している。
56. < 長野県 電気機械器具 >  
原材料不足、大手企業生産調整等の影響もあり、計画休日を実施する企業が数社見受けられる。感染拡大の影響が少しずつ出てきていて、企業間の格差が少しずつ表面化してきている。
57. < 静岡県 電気機械器具 >  
大型冷蔵庫は引き続き販売好調で高水準の生産が継続している。家庭用・業務用エアコンは海外からの部品調達が徐々に正常化しつつある。今までの遅れの挽回で生産は大幅に増加した。
58. < 愛知県 電気機器 >  
現時点では業界景況は好転しているが、増収減益状況は変わらない。仕入価格の高騰、他経費増。在庫も材料入手問題があり、多めの手配となり増加傾向である。
59. < 兵庫県 電子部品・デバイス・電子回路 >  
自動車業界は、半導体等の部品供給不足の長期化、感染者増による生産ラインの一時稼働停止の影響で生産調整を余儀なくされ、結果、前年同月比7.4%減と13ヵ月連続の減少が続いている。
60. < 鳥取県 電気機械器具 >  
材料不足の影響は徐々に回復傾向にある。受注も増加傾向にあるが、受注増に対して慢性的な人員不足による残業増加、生産稼働の細かな切り替え発生など課題が生じている。

### 輸送用機器製造業

61. < 静岡県 輸送用機械器具 >  
半導体の調達不足による生産計画の変更は減りつつあるが、安定した生産に戻るにはまだ時間がかかりそう。サプライチェーンのリスクは多岐にわたっており、取り組む課題も多く苦慮している。
62. < 愛知県 輸送機器 >  
先月に引き続き半導体不足や上海のロックダウンの影響、コロナ禍、7月下旬の豪雨による被害、物価高騰など多くの影響を受け自動車生産などの部品供給が滞っている。
63. < 三重県 輸送機器 >  
この1年あまり、メーカーからの当初の内示数、計画数が多いものの、直前になってカットされるということが度々あり、効率的で安定した生産体制が組めないでいる。
64. < 広島県 輸送用機械器具（自動車） >  
今春のロックダウンの影響からはマツダの生産は回復したが、未だ半導体の供給不足の問題が残っている。7月からは部分的に残業・休出が実施され、正常な水準に戻りつつある。
65. < 愛媛県 造船 >  
今年になり大型船台は船価も改善され順調に仕事量を増やしているが、中小型船台はまだ十分な仕事量を確保できていない。2～3年分の受注も取れ、現在は人員確保が大きな課題である。
66. < 大分県 造船 >  
造船業界においては、この時期、熱中症対策で大変だが、今年はコロナ対策も加わり、健康管理、工程管理等、管理面が大変である。

## その他の製造業

67. <北海道 建具 >  
相対的な仕事量は昨年より減っている。また、発注時期が偏っており集中的になる傾向にあるので、組合員によっては捌ききれず他社に外注する業者もあり、収益的には減益となっている。
68. <秋田県 曲げわっぱ >  
後継者不足、原材料費の高騰、原材料の不足、売上の低迷等、伝統産業を取り巻く環境が悪化しているように感じる。改善の兆しが見えない状況に、業界全体に不安があり、焦燥感が拭えない。
69. <千葉県 土砂採取 >  
都心向けの細骨材の出荷が前年同月比で増加に転じているところもあるが、ここ数年の減少を補う迄に至っていないようである。また、月毎に仕入物の価格改定があり苦慮しているところが多い。
70. <石川県 プラスチック製品 >  
取引先への安定供給のためには原材料の確保が欠かせず、各社において在庫を余分に確保する傾向となり、実際の使用量以上に発注しているため、納期は以前より大幅に長期化している。
71. <奈良県 毛皮革 >  
毛皮なめしは仕事がない状態が続いている。鹿皮は中国から原皮が入らない状態が続いているので、他地域や国内分で賅っている。売上も武道具等が伸びず、新たな販路開拓が必要である。
72. <香川県 綿寝具 >  
7月の業況は、前年同月と比べて悪化している。香川、愛媛県とコロナが増加して、小売店の売上が減少した。従業員の子の学校でのクラスターにより、従業員が休むなど生産性も低下している。

## 《非製造業》

### 卸売業

73. <青森県 米麦 >  
米の在庫はまだ過剰な状況であるが、あと2か月で4年産米が出てくる。今年の農家概算金については農業資材及びすべてのものが高騰しているため、上がることは確実と考えている。
74. <群馬県 再生資源 >  
鉄スクラップの発生量は低調で、電炉メーカーでは電力需給問題もあり夏季減産、需要は低下している。古紙は集荷量の回復は鈍く、価格は輸出向けは下がり、国内向けは横ばいの見込み。
75. <東京都 医科器械 >  
部材入荷、販売納期の遅延が発生している。また、ディスプレイ製品（使い捨ての医療用器具）の欠品に伴い、代替品での対応が増えている。
76. <石川県 一般機械器具 >  
住宅需要は資材の納期遅れはあるものの回復基調であり、非住宅需要も公共工事は落ち込んでいるが、国内需要に動きが見られ、売上は前年並となってきた。
77. <山梨県 自動車中古部品 >  
組合員が行う中古車部品の販売価格が低下し、特に鉄はピーク時の半値になり厳しい状況にある。原材料となる廃車の価格は下がらず、発生台数も過去最低となり、景況感は非常に悪い。
78. <鹿児島県 卸団地 >  
原材料価格上昇により、仕入価格が上昇しているとの組合員の声は多い。メーカーから2回目、3回目の価格値上げが来ているようである。

### 小売業

79. <宮城県 花卉 >  
7月売上については、前年同月対比で99.6%となりほぼ平年並みとなった。月の前半は需要が低調だったが、後半は猛暑に伴う葬儀需要の増加等で供給が追いつかず品不足の状況となった。
80. <栃木県 食肉 >  
全ての食品が値上がりしている中で、油脂・小麦が急激に値上がりしている。その上電気・燃料が30%UPしている為、消費者が買い控える傾向になっている。
81. <富山県 ショッピングセンター >  
梅雨明け後に雨天が続いたため、衣料部門の売上は伸び悩んだ。全体の売上は、前年同月比99.8%、客数については100.2%となり、感染者が急増している中で来店客数は増えている。
82. <広島県 各種商品 >  
春先からの物価高騰に、コロナ第7波の到来が重なり、青果水産とも取扱高は前年実績をわずかに割り込んだ状況になっている。
83. <高知県 中古自動車 >  
慢性的な在庫不足、相場高騰により厳しい状況が続いており、近県から全国まで仕入れ先の範囲が広がっているが、経費等は販売価格に転嫁できないのが現状である。
84. <福岡県 茶類 >  
お茶の収穫時期を迎えた4月上旬に凍霜害が発生したため、一番茶の生産量が前年比約3%減となった。お茶の販売は、コロナ禍の影響で、店頭でなくネット電話注文による販売が増加している。

### 商店街

85. <山形県 商店街 >  
コロナ禍の影響は大きく、来街者は回復していない。イベント開催日は増加するものの、通常日はかなり厳しい現状が続いている。
86. <茨城県 商店街 >  
感染者の急激な増加に伴い、7月19日から宴会や会議等の予約のキャンセルが入り始め、入っていた予約の95%がキャンセルになってしまった。
87. <新潟県 商店街 >  
長岡まつり花火大会開催の期待感もあり、飲食店に客足が戻ってきた7月の前半までは良かったが、感染者数が増え始めた7月の後半からは、夜の客足がピタッと止まってしまった。

88. <兵 庫 県 商店街 >  
 新型コロナ第7波の拡大と日中の異常な暑さにより人通りもやや少なめで、特に年配者は外出を控える方が多い。食料品、日用品等の値上りも多く、中小企業にとって厳しい状況である。
89. <香 川 県 商店街 >  
 コロナ感染の再拡大で、若者は平気に動いているが、高齢者は用心して街に出てくる人数が減っていると実感する。節約意識も一層高まっていて、一部の飲食を除き「数字の悪さ」が聞こえる。
90. <宮 崎 県 商店街 >  
 長引く戦争の煽りか、原材料の値上げが止まらない状況である。ここにきてコロナの再拡大が始まり客足が遠のきはじめている。中小店舗はこれ以上堪えられない所まできている状況である。

## サービス業

91. <山 形 県 情報処理サービス >  
 補助金を活用しての案件需要が減ったように感じられるが、要因としては補助金の条件が以前より厳しくなったことが考えられる。
92. <東 京 都 各種教育業 >  
 自動車教習所の動向は、コロナ禍による学生の前倒し需要や、交通手段の多様化などが沈静化し、コロナ禍前の状況に戻った感がある。
93. <滋 賀 県 旅館・ホテル >  
 感染拡大の報道などによって、キャンセルが多発しており、確実な数が読みにくい。秋からの需要も見通しが立ちにくく、また、十分な資金繰りが立っているとは言いづらい状況である。
94. <和 歌 山 県 飲食店 >  
 7月当初は売上が増加傾向にあったが、月末のコロナ感染者の急増の影響により、客足がぼったり止まり売上が激減している。特に寿司店、スナック、バーなどは厳しい状況である。
95. <愛 媛 県 屋外広告 >  
 6月末頃から再び「BA.5」の疑いがある患者が爆発的に増え、また経済が逆戻りするのではないかと心配している。人手不足に加え、秋には材料費の更なる上昇の噂もあり不安である。
96. <大 分 県 旅行業 >  
 感染者が急に増え、参院選後、夏休みに向け予約が入っていた予約（団体も含む）のキャンセルが相次ぎ、その対応に追われた。ビジネスの海外旅行はコロナ関係なしに動きがあると聞く。

## 建設業

97. <福 島 県 建設 >  
 セメント、セメント系地盤改良材、生コン等の主要資材が高騰しているが、資材価格の調査資料に反映される迄に時間がかかり、施工者負担が増加している。今後更なる価格高騰が予想される。
98. <埼 玉 県 塗装工事 >  
 梅雨明け後の天候不良が続いたため作業の進捗状況に大幅な遅れが出て、その影響で納期の延長交渉等余分な時間を費やした。見積もり依頼は多く来ているが、現場に行く時間を作れない。
99. <長 野 県 職別工事 >  
 材料・運送費の高騰が客先へ価格転嫁できず経営も厳しくなっている。人員の確保が厳しく、更に海外からの技能実習生の確保も難しくなっている。
100. <静 岡 県 総合工事 >  
 少しずつだが、材料費の単価を見直してくれる元請けが増えた。労働賃金も上げていかなければならないので、加工賃の見直しも課題となっている。
101. <京 都 府 左官工事 >  
 コロナ禍やウクライナ情勢による物価高を合わせても、前年同月比としては同様であるように思われる。但し、資材高騰や雇用者給与等支給額上昇もあり更なる収益確保は難しい状況である。
102. <鹿 児 島 県 設備工事 >  
 猛暑での作業により、稼働率が悪いと感じる。コロナ等の影響で工事材料の納期遅延・材料価格が高騰しており、引き続き工程管理等が困難である。

## 運輸業

103. <岩 手 県 一般乗用旅客自動車 >  
 回復の兆しが見えていた観光・飲食などにおけるタクシー需要は、爆発的なコロナ第7波によりまたしても伸び悩んでいる状況である。組合員の企業運営にとっては暫く試練が続くそうだ。
104. <東 京 都 貨物自動車 >  
 高速道路通行料の請求額は前年同月比で4.5%減少となり、4月から前年同月比の減少が続いている。また、前年同月比減少した組合員は約57%と半数以上となっている。

105. < 兵庫県 道路貨物 >  
7月の軽油価格は原油価格が大きく下がったことにより前月比インタンクで5円強、カードで6円弱の大幅な値下げとなったが、前年同月比では未だ7～8円高い状態である。
106. < 島根県 道路貨物 >  
荷動きは全般的に前月よりは幾分よかったというものの、当組合の行う燃料共同購買事業実績では、前年同月比で92.8%と高速道路利用料金ともに今期に入ってから落ち込みが続いている。
107. < 山口県 一般貨物自動車 >  
輸送に関し、製造業関係がかなり忙しくなっている。製品部品輸送と合わせ、倉庫での保管案件もかなり増え、その他、輸入品も持ち直してきている模様である。
108. < 佐賀県 貨物 >  
関東・関西方面への荷動きが悪く、空車で行くことも多かった。軽油価格については、前月より5円/ℓ程度下がったものの、前年比においては国の補助金を勘案してもまだ高く推移している。

#### その他の非製造業

109. < 宮城県 不動産 >  
賃貸仲介は例年になくメーカー、金融関係等の転勤によるシングルタイプから2LDKの賃貸マンションの引き合いが多く、売買仲介はハウスメーカーの建売用土地取得の問い合わせが多かった。
110. < 神奈川県 不動産 >  
土地に関しては売り物件が少なくコマの取り合いで高値取引が続いているが、エンドユーザーの購入控えで販売が思うようにいかず悪循環が続いている。
111. < 新潟県 砂利採取 >  
令和4年7月度の骨材生産量は前年同月比で105.5%、1～6月迄の前年累計比で107.8%と数字上は増加、1～7月迄の前々年累計比で103.7%とようやく同程度にまで回復した。
112. < 山梨県 老人福祉・介護 >  
前年同月と比べ利用者数は減少したが、売上は20%程度増加している。需要は多いが、人員不足により依頼を受けることができない状況が続いている。
113. < 岡山県 信用組合 >  
第7波の影響によりサービス業は売上減少傾向にある。また、原油高影響が拡大しつつあり、全業種において価格転換するなど指導サポートを行っている。手厚い資金繰り支援を継続している。
114. < 福岡県 砂・砂利・玉石採取 >  
価格改正に伴い売上高は上昇しているが、需要量そのものが減少しているため収益状況の好転には繋がらない業況である。コスト要因の増大に歯止めがかからない。